2012年度障害学会ポスター報告

　ユニバーサル絵本

　鎌田一雄（宇都宮大学名誉教授）　鎌田暢子（絵本作家）

１．まえがき

　さまざまな絵本がたくさん出版され、市場で流通している．絵本は、絵と文章との視覚メディアで構成されており、視覚的な受容が前提となってい．絵本の読み聞かせは、音声・聴覚経路も利用する方法である．しかし、絵本は視覚メディアを介した使用（コンテンツの理解）が基本と考えられる．

　このとき、例えば視覚に障害がある子ども、大人（子ども等）にとっては、絵と文章との視覚的受容にバリアが生じる．また、文の読解が難しい子ども等にとっては、文章の理解にバリアが生じることがあり、文章内容を十分に理解できないこともある．このバリアの解消、軽減のために、例えば、出版されている絵本の文章を点訳し、原本のテキスト部分に添付し、絵を点図で表したり説明文を書き添えたりする方法が採用されている．

　これ等のバリア解消の対応は、出版された絵本が持つ受容上の特定なバリアを追加的な操作で解消しようとするもので、いわゆるバリアフリー・デザインに対応する．

　これに対し、絵本創作のはじめから、絵本受容上にいろいろな制約、障害がある読み手にとっても、そうでない読み手にとっても同じように愉しめる（絵本体験ができる）よう目指すデザインもある．これは、ユニバーサル・デザインの考え方に相当すると見なすことができる．本発表では、ユニバーサル・デザインの考え方を、絵本創作に導入した絵本（ユニバーサル絵本と呼ぶ）の概念と、デザインアプローチとを述べる．

２．ユニバーサル絵本

　ここでは、できるだけ多くの子ども等に絵本の体験が共有できるようにすることを目指したユニバーサル絵本の考え方を述べる．

（１）ユニバーサル絵本の概念

　絵本創作の最初から、できるだけ多くの子ども等の絵本体験の共有を考えることが、ユニバーサル絵本の基本である．すなわち、ユニバーサル絵本は、絵本メディアを介して、さまざまな個人特性を持つ子ども等のできるだけ多くが愉しむことができることを目指して作り上げたものを意味する．

（２）デザインアプローチ

　ユニバーサル絵本のデザイン（創作）は、例えば感覚に障害を持つ子ども等にとっても、絵と文章とで構成されている絵本が受容・理解（コンテンツの理解）できるようにすることである．絵本創作では、絵と文章とは排反的に補完する（絵と文章との冗長性を抑える）という考え方が基本にある．しかしユニバーサル絵本では、視覚だけではなく、聴覚、触覚、味覚、嗅覚などの多感覚的体験を絵本の構成要素として採用する．また、これらの多感覚的な体験を利用することによって、絵本の受容経路に冗長性を導入する．さらに、実際の対象との直接的な体験による直接的な理解も活用できるようにする．以下に、ユニバーサル絵本の使用形態を考慮したデザインアプローチを述べる．

（a）絵本の使用形態

　読み手の体験・経験、既有知識はコンテンツ理解に重要である．例えば、絵本が対象とするものの実体験、実物を利用する読み方もある．すなわち、実体験を積極的に活用・併用した絵本体験の方法がある．また、読み手が一人である場合（一人読み）もあるが、誰かと一緒に読むということもある．体験の共有からは、こどもと大人とが一緒に読むという形態も有用な方法であると考える．

（b）絵、文章の構成

　実物と絵本が提示する概念・内容との関連が読み手にとってわかり易い構成を採用する．絵と文章とに冗長性を導入し、読み手の受容経路の狭さの補償を図る．

（３）ユニバーサル絵本の事例

　試作絵本（「おばあちゃんのやさい」）の一場面（図1）を説明する．この場面では、田舎のおばあちゃんが孫（子ども）に、畑からとってきた「ナス」（やさい）を見せている．「ナス」の視覚的様態だけではなく、「とげ」、「柔らかさ」、「におい」などの触覚、嗅覚的特性を用いて「ナス」を記述する．多感覚的体験の総合化によって、読み手ごとの自然な感覚・刺激を通して、絵本体験の共有を目指している．

３．まとめ

　ユニバーサル絵本の概念と試作例を述べた．絵本の創作（デザイン）に、制約が生じるかもしれない．しかし、絵本の創作活動を実質的に狭めるものではないと考える．ユニバーサル絵本の概念（使用形態も含む）が、子ども等の絵本体験の拡大に役立てば幸いである．

図1 絵本の一場面（「ナス」の記述）．

絵本の文章　おばあちゃんが、ほそながいなすびを みせました．「どうだい、きれいなむらさきいろにできたろう」「つるつるしてひかってるね．あれ、でもてっぺんのところにとげがある」ぼくがゆびさすとおばあちゃんは「そうそう、へたにはとげがあるんだよ．よくきがついたね．えらい、えらい」とわらいました．

絵の説明：おばあちゃんが、両手でなすびを持って子どもに見せています．子どもは、なすびのヘタの部分を指さしています．

